女官装束着用次第

女官装束着用次第

ん
10

ん
10

女官装束着用次第圖

内侍典侍物具

先大垂髪　次釵子平額　次内衣白小袖一襟折

次打袴

帝國圖書館藏

女官装束着用次第圖

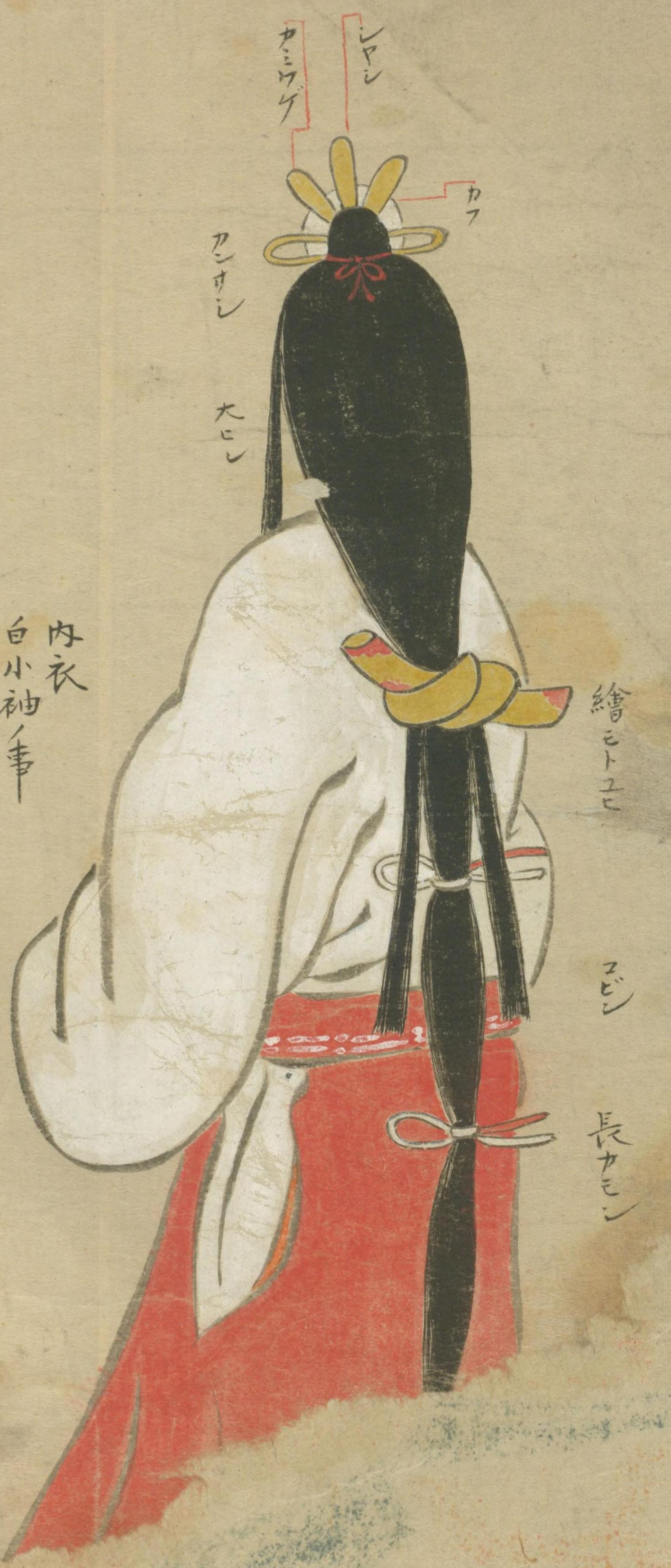
帝國圖書館藏

内侍典侍物具

先大垂髪　次釵子平額　次内衣白小袖一襟折

次赤袴

大垂髪俗ニ云スヘラカ


サイシ
カミアゲ
カフ
カンサシ
大ヒレ
繪モトユヒ
コビン
長カモシ
紅ノウチハカマ

内衣白小袖ノ事

一ツヱリトハイクツ重子テキル氏上ノ小袖ノヱリニテ下ノ小袖ノヱリヲツヽミコメテキルヲ云

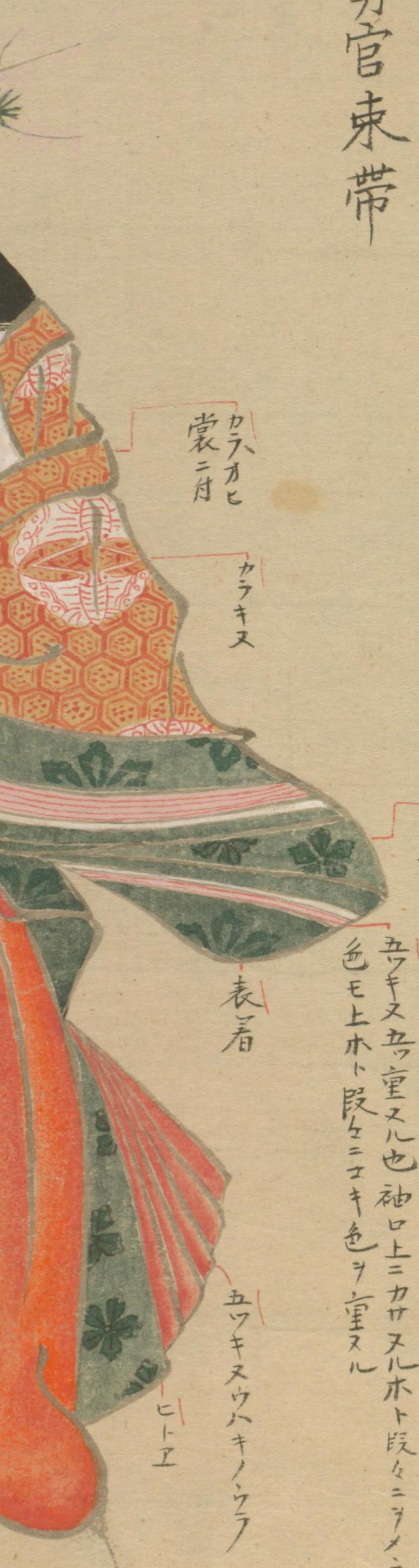
次單衣　赤衣　五衣　表着　唐衣　裳

以上謂之物具如男官束帯

掌侍御下等

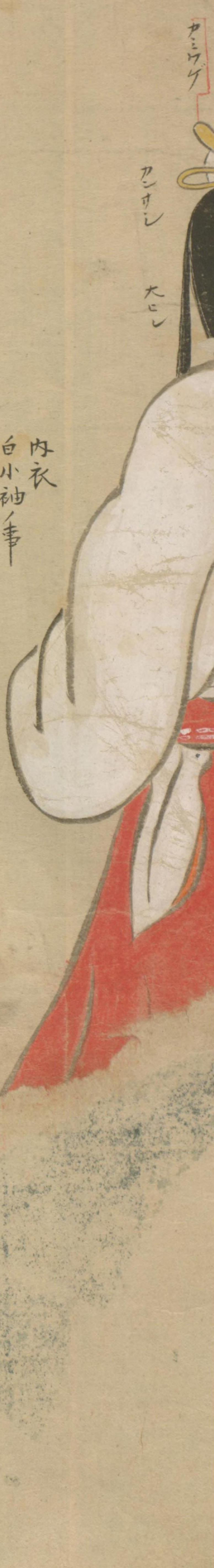
物具重揉

如右


カラオヒ
裳ニ付
カラキヌ
ヒトヘ
表着
五ツキヌウハキノウラ
ヒトヘ

五ツキヌ五ツ重ヌル也袖口上ニカサヌルホト段々ニツメテカス
色モ上ホト段々ニコキ色ヲ重ヌル

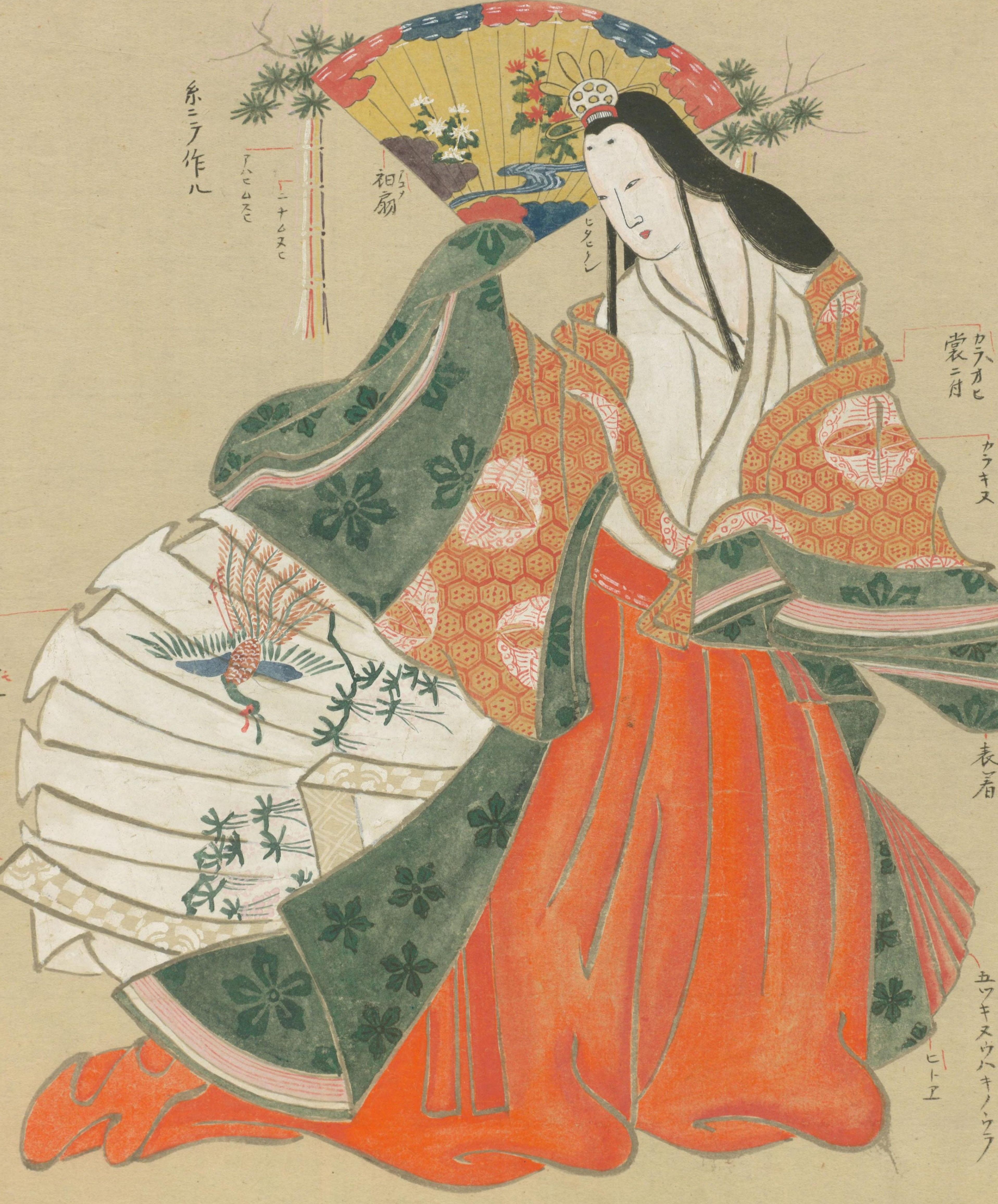
國立國會圖書館　タイトル『女官装束着用次第』　請求記号 ん-10


カミワゲ
カンサシ
大ヒレ
紅ノウチハカマ

内衣
白小袖ノ事

一ツエリトハイクワ重子テキル𪜈上ノ小袖ノエリニテ下ノ小袖ノエリヲツヽミコメテキルヲ云

次單衣　打衣　五衣　表着　唐衣　裳
以上謂之物具如男官束帯
掌侍御下等
物具重様
如右
但表着典侍
計着之

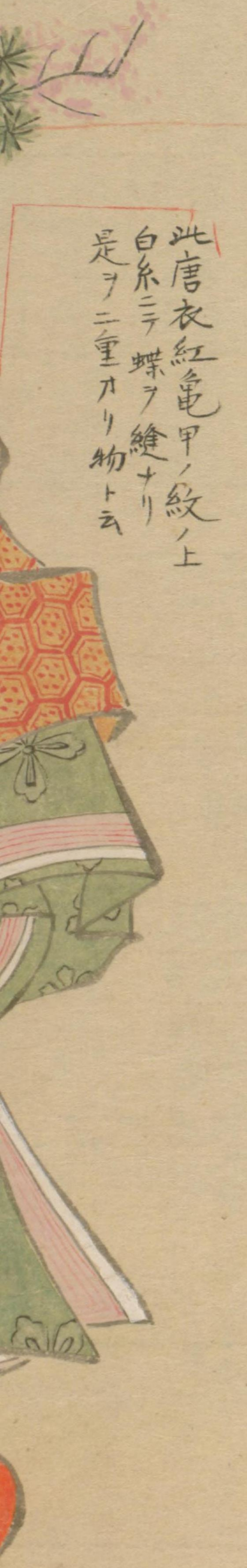

糸ニテ作ル
アハヒムスヒ
ニナムスヒ
衵扇（アコメ）
ヒタヒクレ
カラハオヒ
裳ニ付
カラキヌ
ヒトエ
表着
ヒトエ
裳

五ツキヌ五ツ重ヌル也袖口上ニカサヌルホト段々ニウメラカス
色モ上ホト段々ニコキ色ヲ重ヌル

五ツキヌウハキノウラ

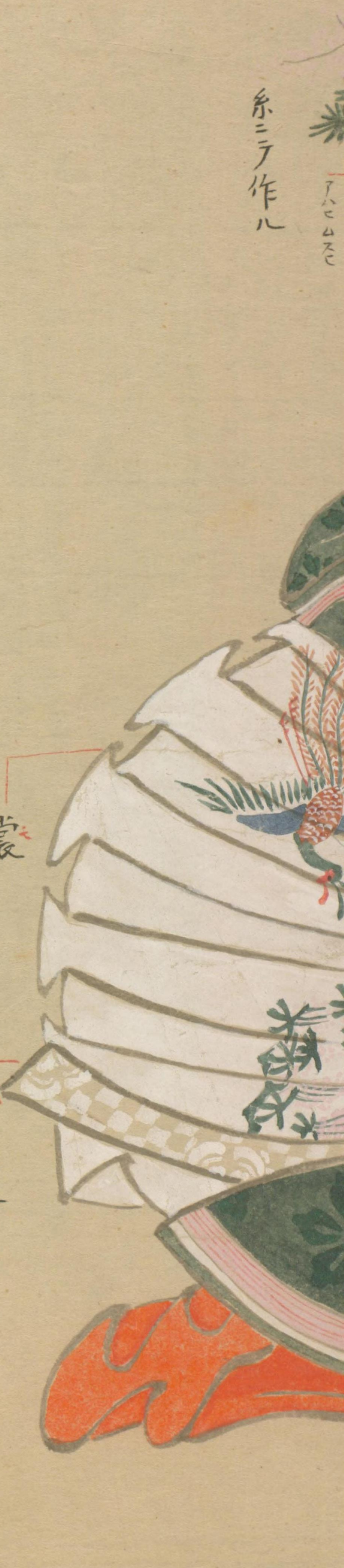
引コシ　裳ニ付
左右ニ有

同
後 前
後

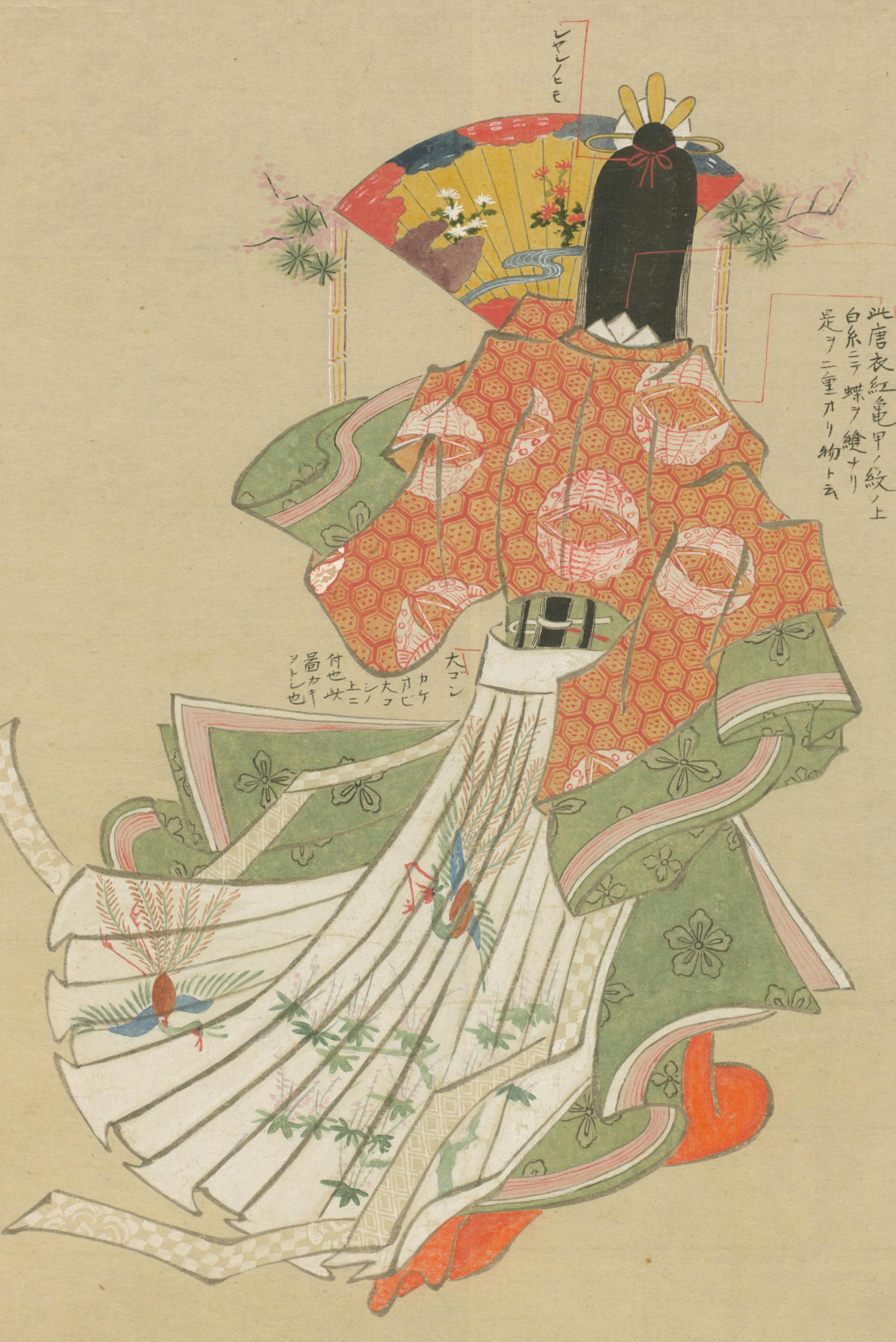


カミヲキカラキヌノエリニ付
白チリ也

此唐衣紅亀甲ノ紋ノ上
白糸ニテ蝶ヲ縫ナリ
是ヲ二重オリ物ト云


糸ニテ作ル
アハヒムスヒ
裳
引コシ 裳ニ付 左右ニ有

同後（前）
後


ヒレノヒモ
白チリ也
カミヲキカラキヌノエリニ付
此唐衣紅亀甲ノ紋ノ上白糸ニテ蝶ヲ縫ナリ是ヲ二重オリ物ト云
大ゴシ
カケオビ大コシノ上ニ付也此圖カキヲトシ也
引ゴシ

上古之小袿重様之躰

内衣 赤袴 單（衣ハ五ツ衣ナリ） 赤衣（五衣） 表着 小袿

右上ニ重ル衣寸法次第ニ退

謂之女官直装束 如男官衣冠 但此躰今世無之

又曰上古不着唐衣時表着上ニ

上古之小袿重様之躰

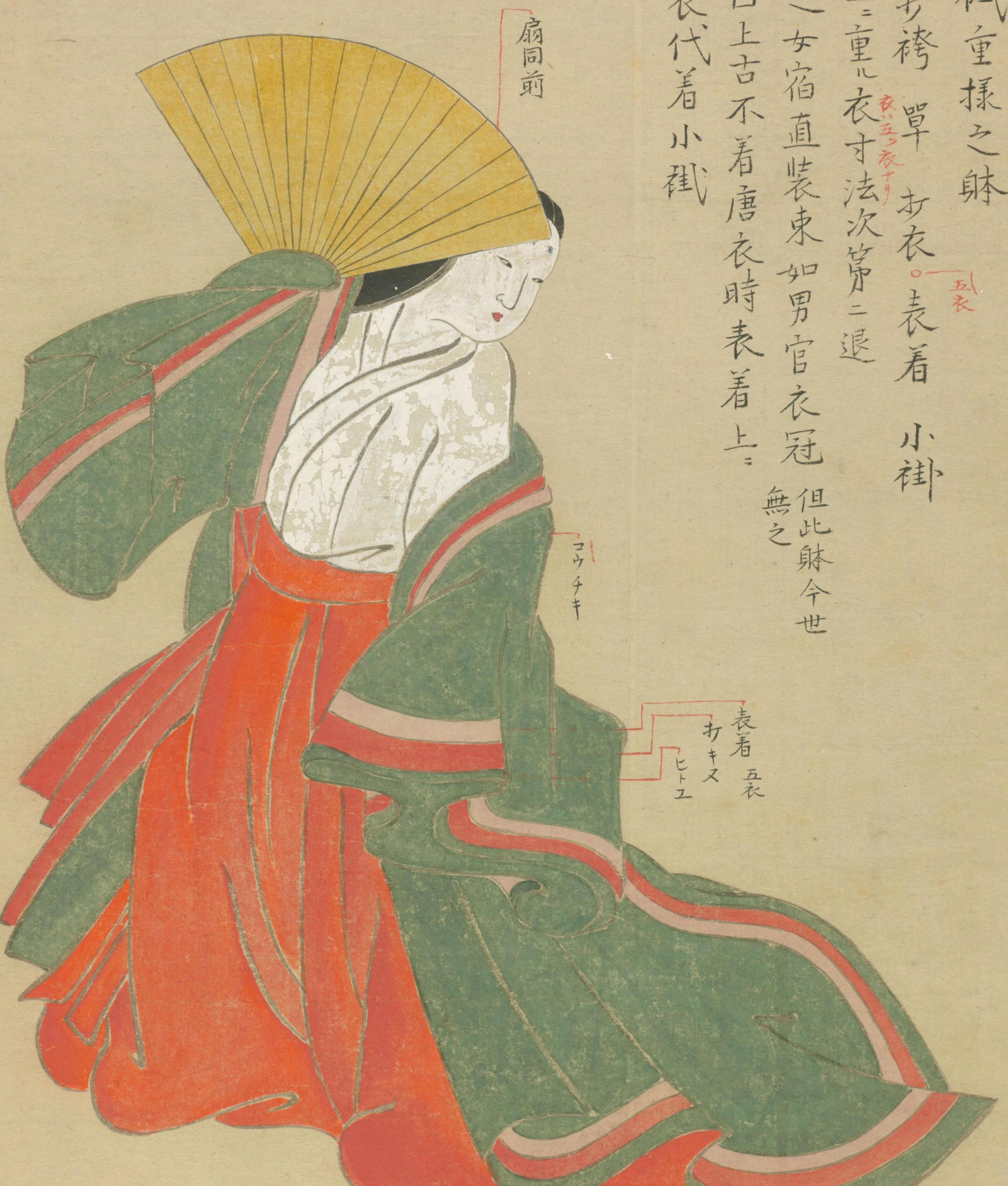
内衣 打袴 單 打衣○（五衣）表着 小袿

右上ニ重ル衣（衣ハ五ツ衣ナリ）寸法次第ニ退

謂之女宿直装束如男官衣冠（但此躰今世無之）

又曰上古不着唐衣時表着上ニ

唐衣代着小袿


扇同前
コウチキ
表着 五衣
打キヌ
ヒトエ

同後前

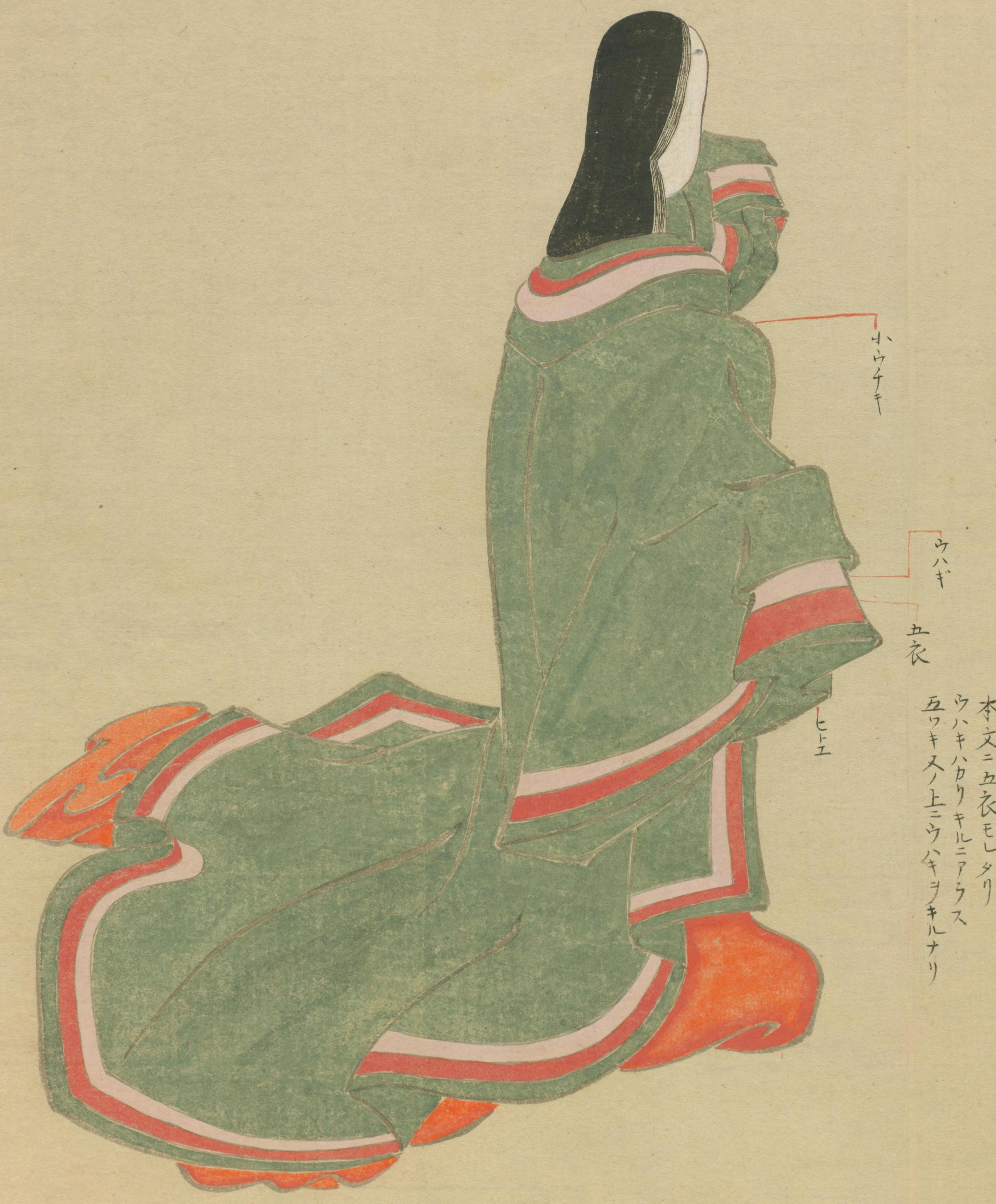
後

本文ニ五衣モレタリ

ウハキハカリキルニアラス

五ツキヌノ上ニウハキヲキルナリ

同後前
後


小ウチキ
ウハギ
五衣
ヒトエ

本文ニ五衣モレタリ
ウハキハカリキルニアラス
五ツキヌノ上ニウハキヲキルナリ

采女衣童様之躰
大垂髪　釵子　平額
額櫛　内衣　小袖白一襟折
着之　紅袴　單　繪衣

繪衣
ヒトエ
エキヌノウラ
ヒトエ

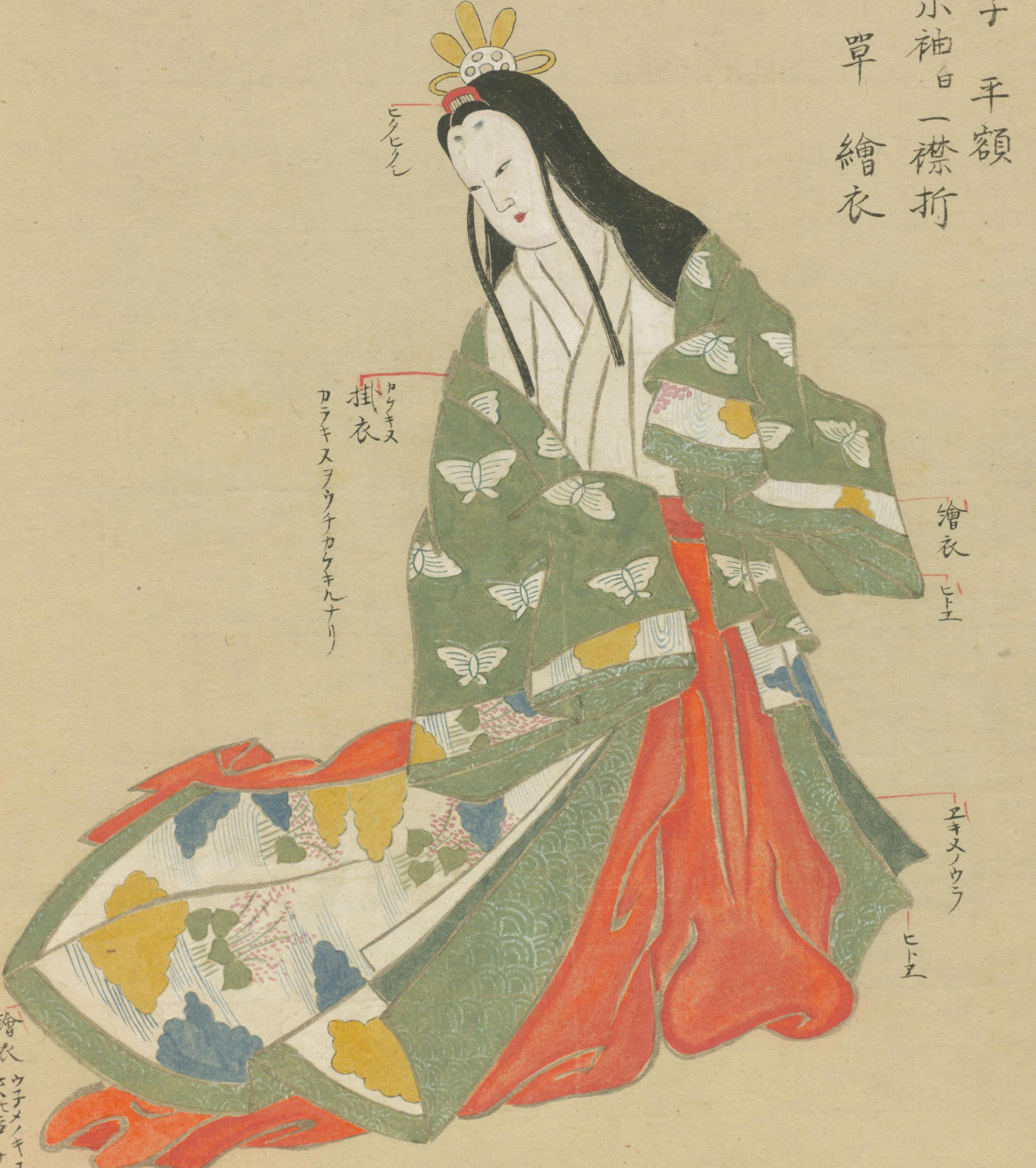
釆女衣重様之躰

大埀髪　釵子　平額

額櫛　内衣　小袖（白）一襟折

着之　紅袴　單　繪衣

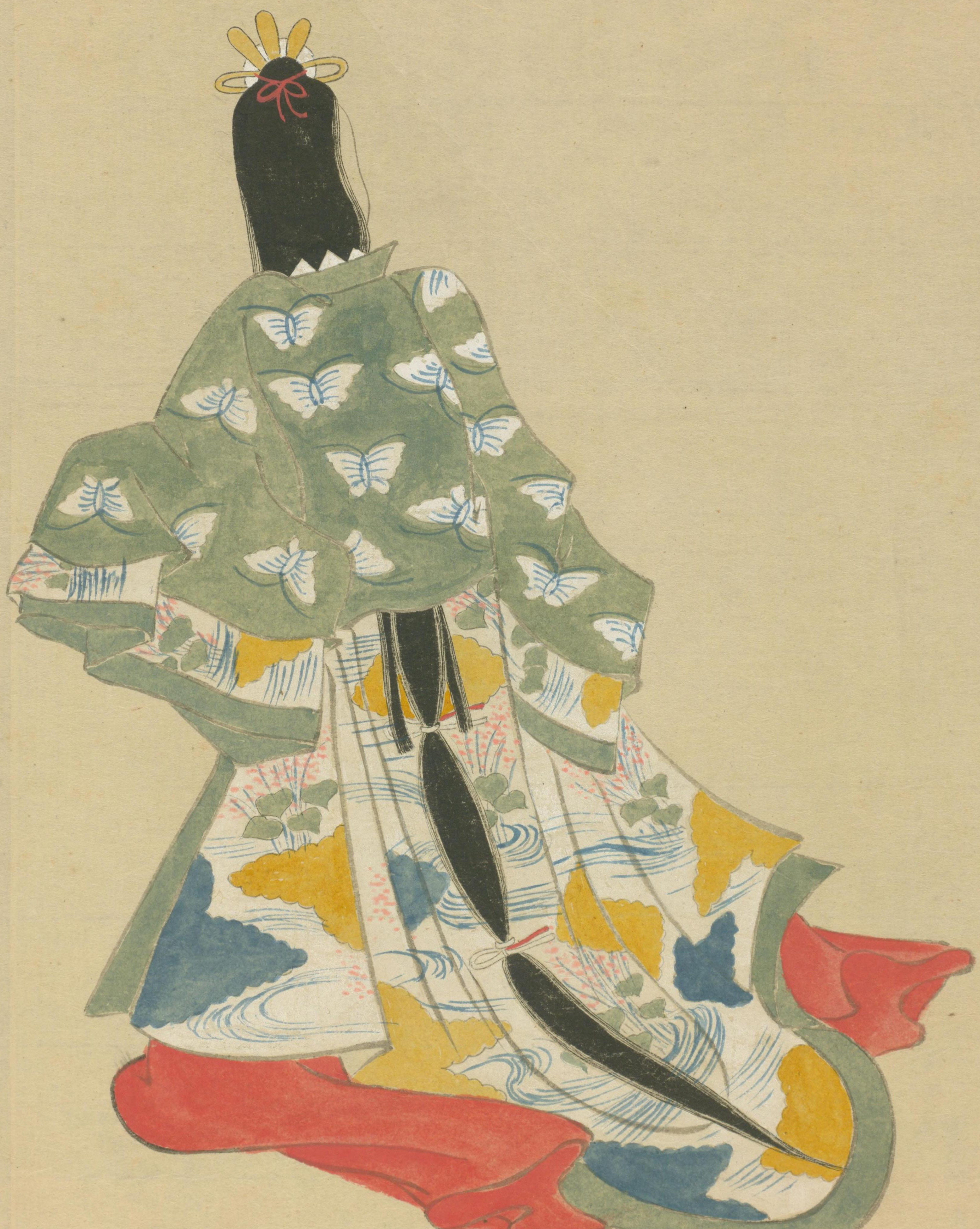
掛衣


ヒタヒタヒ
掛衣（カケキヌ）
カラキヌヲウチカケキルナリ
繪衣
ヒトヱ
ヱキヌノウラ
ヒトヱ
繪衣
ウチメノキヌト
云ハ此事ナリ
繪ハ是ニ限ル
ヘカラス

同前後

繪衣 ウチメノキヌト云ハ此事ナリ繪ハ是ニ限ルヘカラス

同前後

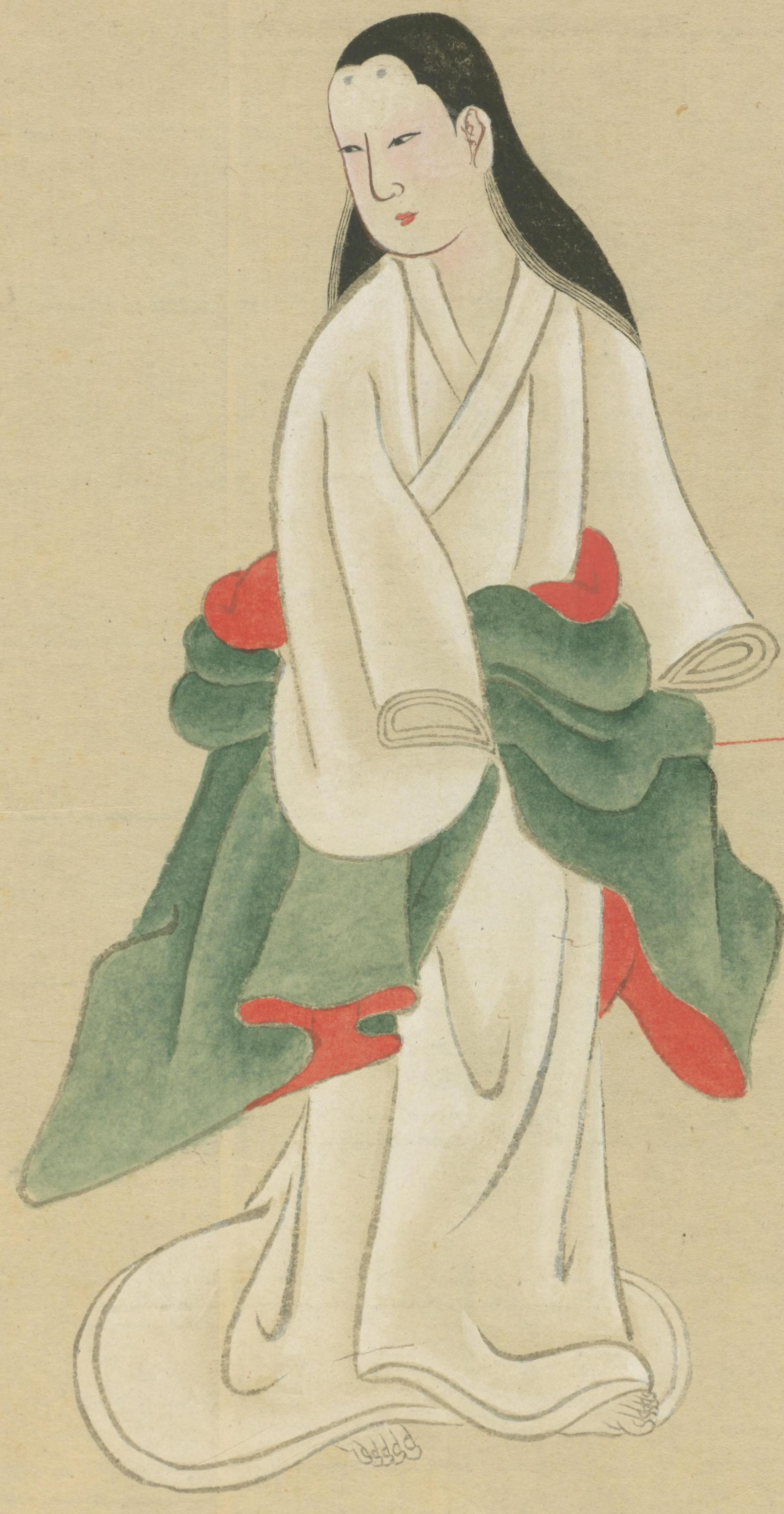


女孺掛衣之躰

着掛衣結中組肩ヲ

ナリ 禁秘抄ニ刀自（トジ）衣唐衣ノ躰也

女孺掛衣之躰
着掛衣結中袒（スグ）レ肩ヲ



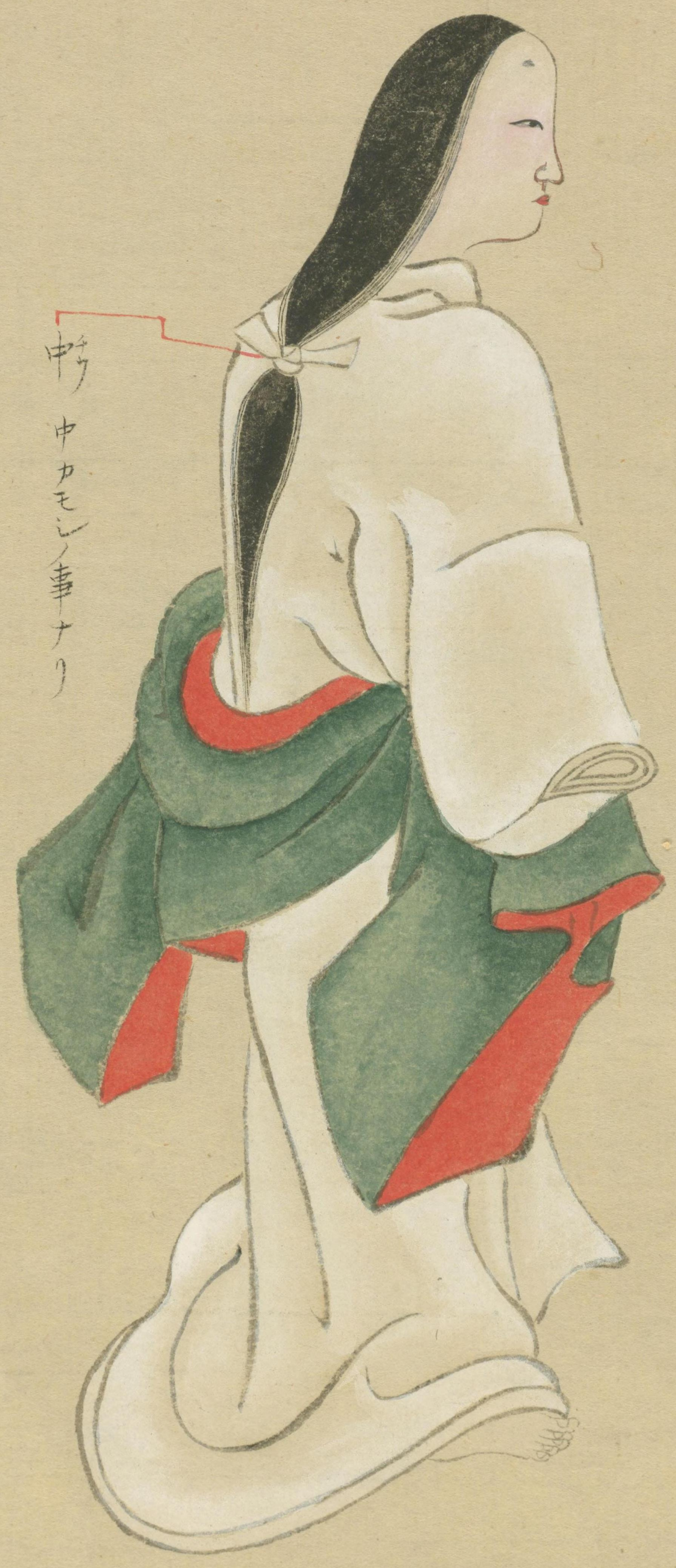
カケキヌナリ 禁秘抄ニ刀自（トジ）衣唐衣ノ躰也
結中ヨトアルハ是ナリ

同
前後

上古腰巻之躰

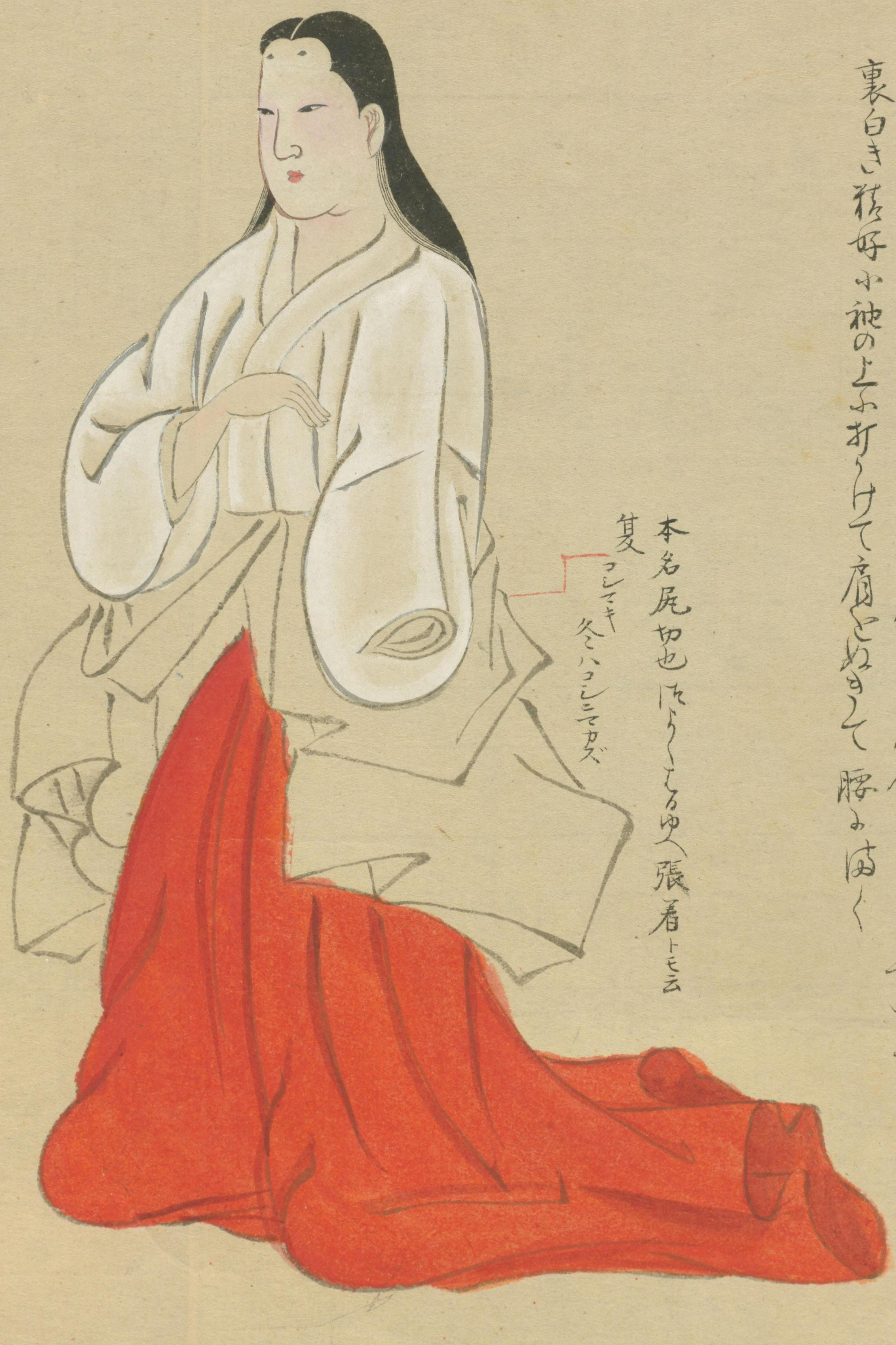
女官装束図式云屍切（しきし）雑仕御樋洗所着也はりつきゝ（張着）冬表紅梅（赤黒）裏白形つくろふあかり帯をせぬそれより秙好の條と名用夏ハこれをとゞしまれとて表白きとし縫いく金銀いろ〳〵ぬひものにつけ裏白き秙好小袖の上に打かけて肩をぬきて腰に卷く

同前後



上古腰巻之躰

女官装束図式云 屍切（しきし） 雑仕御樋洗所着也 はつき（張着）冬表紅梅（赤黒）
裏白袷つくるなり 帯をせんを代よふ稚好の袴と名用
夏ハこれをうすものと云 表白すゝし 縫ふく金銀いろく もやうをつけ
裏白き稚好小袖のよふ打かけて肩をぬきて 腰に卷く



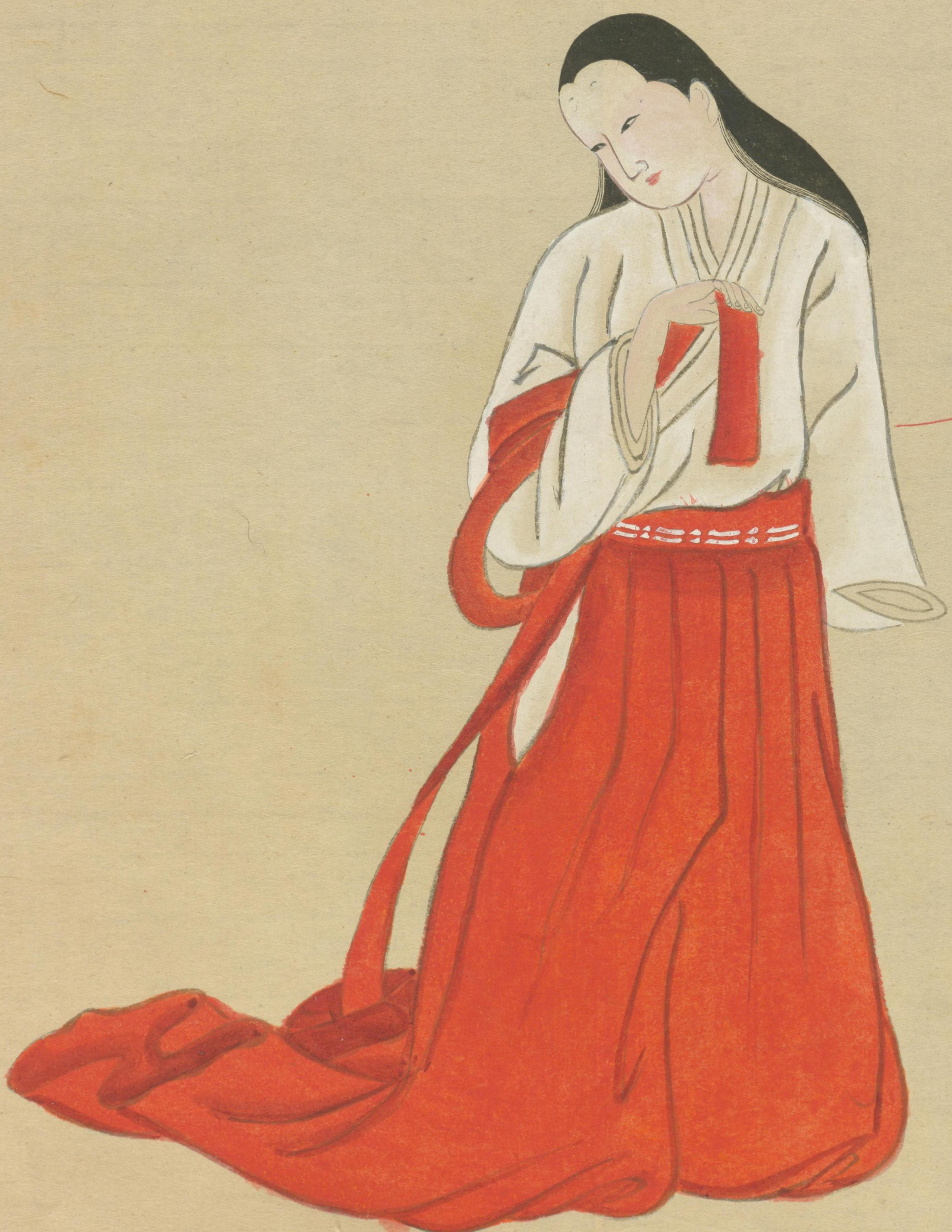
本名屍切也 はらしたるゆへ張着トモ云
夏 コシマキ 冬ニハコシニマカズ

緋袴着躰

但内衣 三襟重様
先白小袖次小文箔

小袖也是ハイテタ張着ヲキサル躰也冬ハ張着ノスソヲハカマノ内ヘキコムルナリ 夏ハキコメスウチカケキテコレニマクナリ

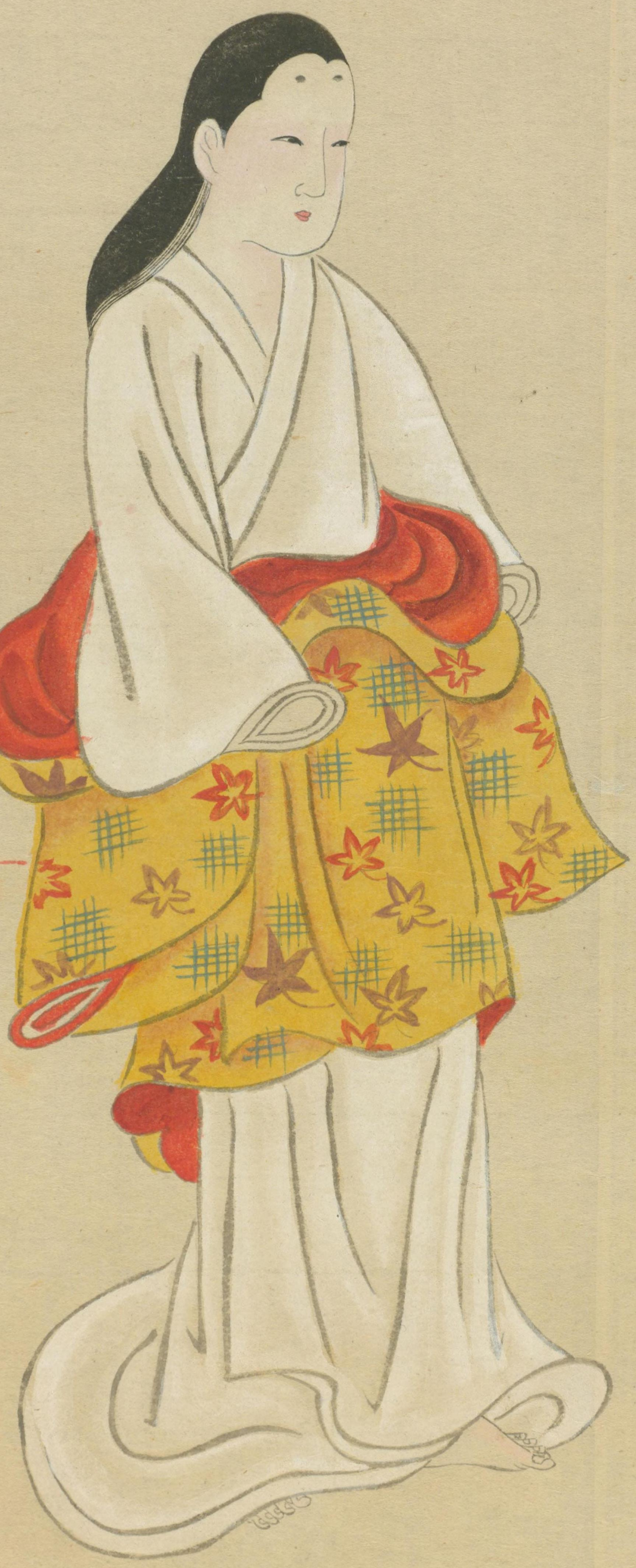
緋袴着躰
但内衣　三襟重様
先白小袖次小文箔
次張着



小袖也是ハイマタ張着ヲキサル躰也冬ハ張着ノスソヲ
ハカマノ内ヘキコムルナリ　夏ハキコメスウチカケキテコレニ
マクナリ

當時搔取（カイトリ）之躰　或曰腰巻
搔取ニ用小袖之品
肩裳（カタスソ）　肩裳衣ニ縫物有ル小袖也

當時搔取（カイトリ）之躰　或曰腰巻
搔取ニ用小袖之品
肩裳（カタスソ）　肩裳ニ縫物有ル小袖也
細格子（サイカウシ）　細キ格子嶋小袖也
唐織
段織筋（ダンヲリスヂ）



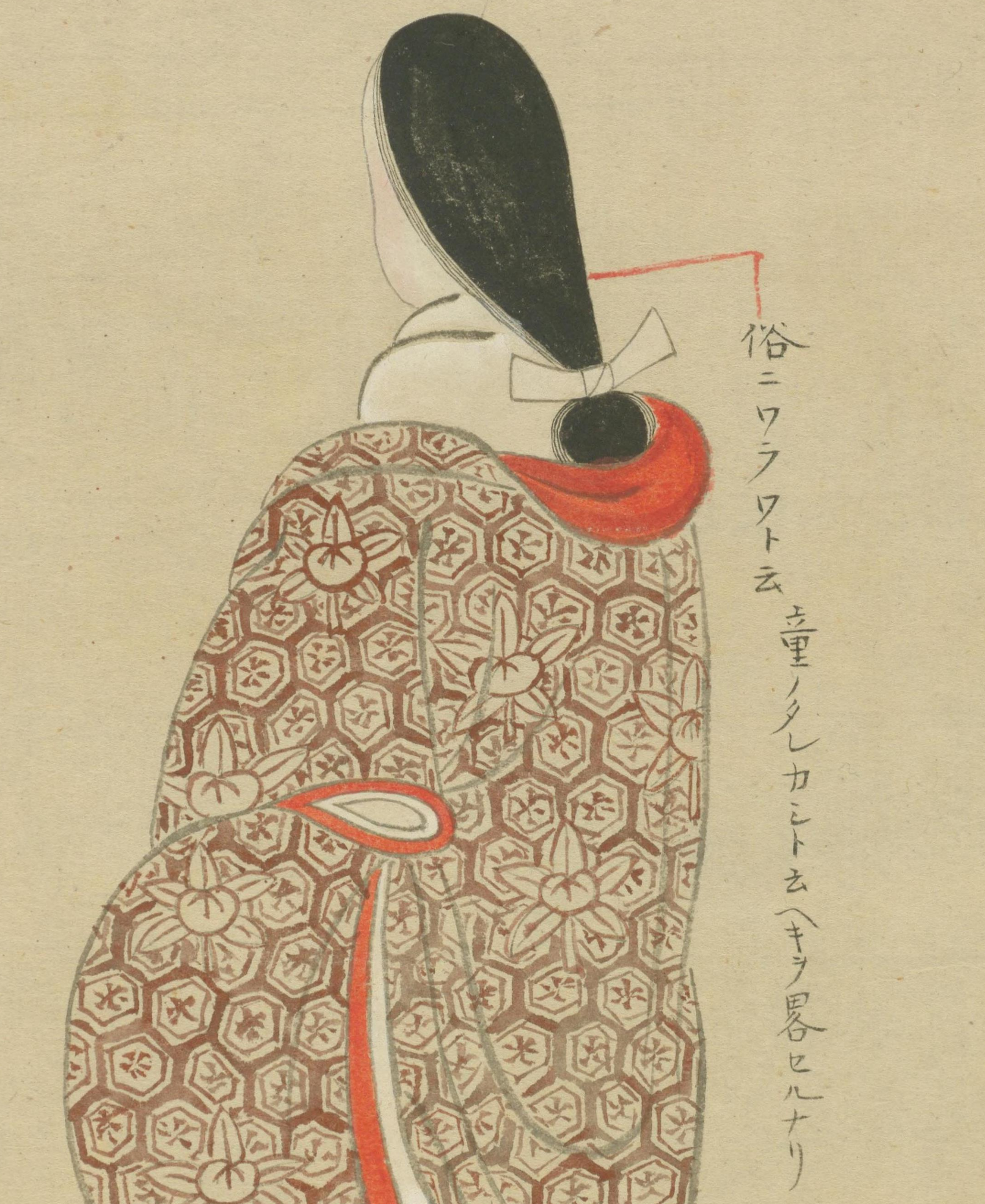
小袖ヲ腰ニマク也
尻切ノ畧也

童之躰　十六歳マテ如此

髮ヲ分テ中ヲ結

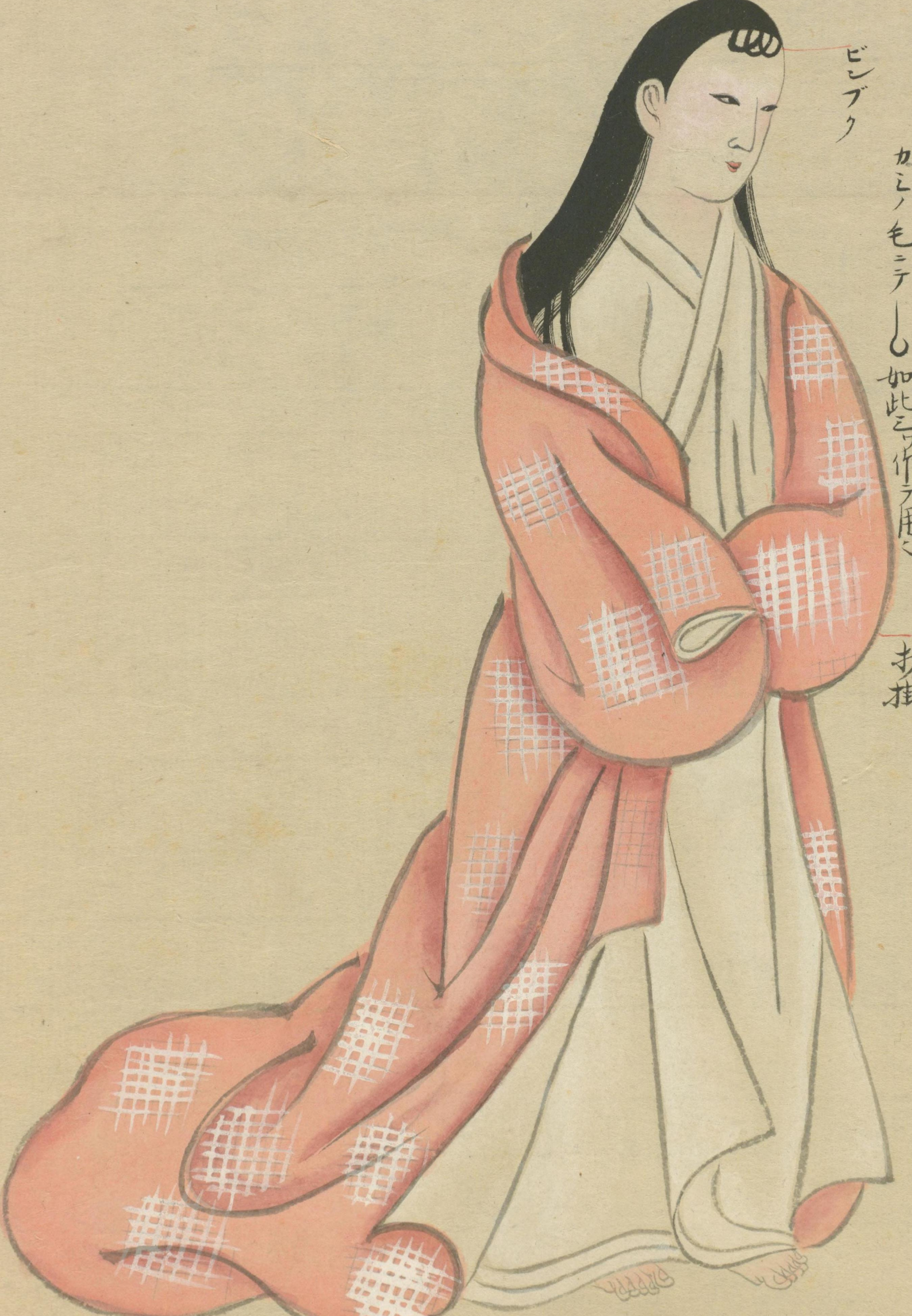
小袖ヲ腰ニマク也
尻切ノ畧也

童之躰　十六歳ニテ如此
髪ヲ分テ中ヲ結


俗ニワラワト云　童ノタレカミト云ヘキヲ畧セルナリ

打掛ビンブク之躰

打掛 ビンブク之躰


ビンブク
カミノ毛ニテし如此ニワ作テ用之
打掛

此一巻安永七年戊戌九月廿九日写畢　京本　少[illegible]

此一巻安永七年戊戌九月廿九日写畢　原本少損じ

ありし写本にて今按るに此巻ハ常用の衣裳装束をしるし

せる也装束名称文字の故実ハ別ニ書あり　今

卒忽ニ模写す他日精写すへきもの也

（写のところ〱ハ墨にて朱点を加へたるハ落字なり）

（かなしなき　よろし）

伊勢平蔵貞丈書